

## 2015 年度第 1 回ロードレース委員会 (全日本関連) 議事録 【ダイジェスト版】

開催月日： 2015 年 7 月 29 日 (水) 午前 10 時 45 分～午後 5 時

開催場所： 東京・中央区 MFJ 会議室

### I. 開催状況

1. 4 戦終了現在、下記のとおりであることが報告された。 (単位：人)

	観客数	エントリー 台数合計	JSB1000	ST600	J-GP2	J-GP3
1 大会あたり平均台数	19,830	98	38	28	22	30
前年対比 (%)	100%	105%	110%	75%	90%	85%

2. ST600 の傾向

今年度より、ワンメイクタイヤ制度を導入した ST600 クラスの傾向について以下のように報告された。

- ・ 1 大会平均参加者数は、前年比 25% 減(-9 名)であるが、参加者の年間エントリー者数は増加しており、その登録者の約半数は他のクラスから移った方、昇格者に入れ替わっている。
- ・ 年間参加者 26 名中 8 名が 10 代の若者で若返りが図れている。
- ・ タイヤ使用本数制限により予選の走行をセーブする為、予選ベストタイムは昨年より落ちているが決勝のベストタイムはほぼ同じでありタイヤ性能や耐久性に問題はない。
- ・ トップライダーからのタイム差を昨年と比較するとイコールコンディションは損なわれていない。

3. MFJ ロードレースライセンス発行状況

7 月 21 日現在のロードレースライセンス発行状況は、前年同月比 4% 増、内訳は、ロードレースの国際ライセンス継続者以外は、すべて、新規、継続ともジュニア、フレッシュマン、国内と取得者は増加している。ロードレースライセンス増加は 250 クラスの普及が要因と思われる。

### II. 全日本選手権 シリーズランキング (中間) 報告

全日本選手権シリーズランキング表 (第 4 戦 SUGO 大会終了時点) が提出し承認された。

### III. 審査委員長、セーフティオフィサー報告 (Rd1～Rd4) および後半戦の対応

1. 各大会の競技運営状況が以下のように報告された。

2. 前半戦での課題に対する審議項目

- 1) ペナルティーポイント (以下 PP と記す) について

(1) 問題点

- ・ レースディレクションは競技監督とセーフティオフィサー (以下 SO と記す) で構成され、PP は競技監督が、競技上の違反行為とは判断しなかったレース中の危険行為やマナーに反する行為に対して SO が判定しレースディレクションとして PP を科すことになっている。
- ・ レースディレクションを構成する競技監督が違反行為と判定しなかった行為に対して SO が判定したペナルティポイントを両方で構成するレースディレクションとして科すことに矛盾があり、PP はレースディレクションとし

て科すのではなく、SO の権限として独立すべきと指摘された。

★ (決定事項)

- ① ペナルティーポイント決定および管理は、セーフティーオフィサーの専任事項とし (レースディレクションとしてではなく) 以下のような規則を改定し公示する。

改定箇所：付則 5 全日本ロードレース規則 27 項

改定内容：27-3-11 を削除し、27-4 項、27-4-1 項 として新規規則追加

**27 MFJ セーフティーオフィサー (MFJSO) の義務と権限**

27-3 MFJSO は、以下の項目について MFJ 国内競技規則および大会特別規則に従い、競技監督に対し助言を含め協議対応を行なう。

~~27-3-11 ペナルティーポイントの付与に関する判定とポイント管理~~

**27-4 MFJSO は、以下の項目について MFJ 国内競技規則および大会特別規則に従い、判断判定することができる。**

**27-4-1 ペナルティーポイントの判定と付与およびポイント管理**

- ② ペナルティーポイントの対象は土曜日、日曜日とする。
- ③ ペナルティーポイントの積算表は、次大会の掲示板に公示される。
- ④ ペナルティーポイントが発生した場合、リザルトに記載し、セーフティーオフィサーも競技結果に署名する。(リザルトに間に合わない場合は、公式通知で発表)
- ⑤ 実施時期は、全日本選手権第 5 戦もてぎ 2 & 4 大会から適用とする。

**2) ウォームアップ 3 分前の作業終了 (スタート進行) 遅延行為について**

決勝前のグリッド上でのタイヤ交換、タイヤウォーマーの取り外し遅延などレースの駆け引きに影響し、公平性を保てず、スタート進行時間遅延とレース進行に支障をきたしており、後半戦からの対応について下記のとおりとすることになった。

● 手順： スタート進行の遅延行為に対しては、

- ① オフィシャルは、3 分前作業終了に対する警告を行う。(口頭警告)
- ② 上記の指示に従わないチームには、ペナルティーを通告する。
- ③ 「ストップ&ゴーペナルティー」等のペナルティーを科す。

適用は、第 5 戦もてぎ 2 & 4 大会から適用し、公式通知およびブリーフィングにて説明する。

**3) 大会時に課せられた「罰則金の未払いについて」**

罰則金の判定を受け、速やかに支払いが完了しない場合は、以下の対応とする。

- ② 罰金の支払いが終了するまで、次大会のエントリーは受け付けない。
- ②すでにエントリー済の大会は、当該大会の選手受付までに罰金の支払いがなければ参加を拒否する。(全日本選手権は、ART 走行より適用される)

## IV. 全日本選手権 後半戦に向けて

### 1) ST600の予選方式の変更案

背景説明：本年よりワンメイクタイヤ制度を実施し、使用セット数を予選/決勝を1セットに制限したが、予選においてタイヤ温存のため極端に走行周回数が少なくなり、参加者、観客より不満の声があり、ARTがまとめた選手アンケート（第2戦AP大会時）結果も考慮し、予選の見せ方、観客アピールの視点から新たな計時予選方式を提案し検討し、以下のとおり決定した。

提案内容：

予選方式：計時予選を、Q1, Q2の2部構成とし、インターバルを含めた一連の予選方式に変更する。

※タイヤ使用本数制限は、予選、決勝ドライタイヤ1セットコントロールは維持する。

フォーマット

Q1計時予選15分 – インターバル（10～15分） – Q2計時予選15分

#### ●詳細

- ・ Q1は全車走行、Q1の結果で、1位～12位をAグループ、13位以下をBグループ組に分ける。
- ・ インターバル（10分から15分は施設によって設定される。）
- ・ Q2は全車走行し、Q2の結果によって、決勝スターティンググリッドを決定する。  
 Aグループの選手は、予選1位～12位のグリッドが決定  
 Bグループの選手は、予選13位～最終グリッドが決定

#### ●補足

- ・ 予選基準タイムはQ1のトップタイムを適用する。  
 Q1で予選基準タイムに満たない場合、Q2を走行できるが、この場合Q2において予選基準タイムをクリアしなければならない。
- ・ リザルトは、Q1結果、Q2結果、総合結果で構成される。罰則、抗議はすべて予選終了後とする。
- ・ 予選中およびインターバル中に、安全上の理由以外での転倒車両の回収は行わない。

#### ●適用時期と公示方法

- ・ この予選方式は、筑波大会から実施する。
- ・ 公示は、MFJのホームページおよびART、筑波の公式通知にてPRを行う。

### 2) ST600タイヤ配布と受取りについて

現状、木曜、金曜に配布するよう設定されているが、時間外に来るエントラントが後を絶たないことが報告され、SUGO大会時に時間内の引き取りの注意を行っており、次大会（筑波）にて改善されない場合は、罰則が適用される。

### 3) タイヤシール

ST600、JSB1000で実施しているタイヤシール制度で、エントラントのシール貼付ミスが発生していることから、エントラントに対する案内を徹底する事が確認された。

#### 4) JSB1000 タイヤ17インチ化 (報告事項)

7月23日付け、JSBホイールサイズに関する告知が提出され、確認された。

●告知内容

2017年よりホイールサイズを下記に制限する。

リム径：17インチ (フロント、リヤ)

リム幅：フロント3.5インチ、リヤ6インチ

ホイールの材質については、後日発表とする。

#### 5) ART提案

(1) ST600の予選方法予選方式の変更

上記、「1) ST600の予選方式の変更案」で審議済みの為、割愛

(2) J-GP2クラスの重量について

●要望事項 ライダー+車両重量の合算重量への変更

現在のGP2クラスは、ライダー体重の差がマシン加速やトップスピード差を生んでおり、エンジン改造規則もSTベースで限られており、この差を埋めにくく、車両の改造範囲を広げるとコストがかかるため、車両とライダーの総重量に変更要望が出された。

●結論

- ・ライダー+車両重量の合算とすることは可決 (2016年より実施)
- ・数値はライダー (装備込) 重量値のデータなきため、ARTから調査データを提出いただき、検討する事が確認された。

(3) 全日本選手権 第5戦 もてぎ2 & 4大会周回数

第5戦もてぎ大会は周回数22周とされているが、燃費の問題から困難なチームもあり、サイティングラップ後の燃料補給を認めて欲しいとの要望が出され、審議の結果認めることとし、プリーフィング時に各チームに案内することが確認された。

(4) 医療体制について

- ・各施設とも金曜日のART走行時から医師の配置体制を整えることが確認された。(即時実施)
- ※あわせて、全日本運営マニュアルに追記することが確認された。

(5) SUGO大会のJSB1000クラスセミ耐久に関して、

- ・全日本の盛り上げ施策として3年間したが、効果が見受けられず、エントラント側では、セミ耐久の継続および今後の方針について質疑が出された。

●結論

3年間実施した結果なのでSUGOの意見を尊重する。

(6) MFJグランプリJSB1000 予選「TOP10サバイバル」の開催要望について

鈴鹿サーキットより最終戦MFJグランプリJSBクラスの盛り上げ策として以下が提案された。

① 予選について

下記のフォーマットが提出され、承認された。

予選 Q1 40分間の計時予選	Q1の結果をもとに決勝レース2のグリッド決定
-----------------	------------------------

予選 Q 2 TOP10 サバイバル 1 周目：8 台勝ち抜き（2 台脱落） 2 周目：6 台勝ち抜き（2 台脱落） 3 周目：4 台勝ち抜き（2 台脱落） 4 周目：2 台勝ち抜き（2 台脱落） 5-6 周目：P.P 決定	Q 2 の結果をもとに決勝レース 1 のグリッド決定
---	----------------------------

② 決勝の周回数について

決勝レース 1 周回数 8 周 決勝レース 2 周回数 15 週の提案がなされた。主旨としては、レース 1 の周回数を短くすることにより、予選 Q 2 結果の重要性を引き立てる意味での提案である。

●結論：

- ・ 予選方式については、ロードレース委員会として承認した。
- ・ 決勝の周回数については、ART にてレース 1 の周回数 8 L A P について各チームの意見を確認したのち、結論を出すことになった。

**6 ) 筑波サーキットのコース査察報告**

6 月 2 0 日にセーフティ委員会にて筑波サーキットの査察が実施され以下が報告された。

- ・ コース タイプ A の増設配置の確認
- ・ ピットの腰壁の撤去工事
- ・ 最終コーナーの縁石外のランオフエリアのバイブライン（経過確認）

タイプ A パッド位置の最終確認をセーフティオフィサー立会いのもと 9 月 24 日（木）に最終確認を行うことが報告された。

**V. 2016 全日本および主要競技会カレンダー**

下記カレンダー案が確認された。

<世界選手権>

7 月 3 日 鈴鹿 アジアロードレース選手権

7 月 31 日 鈴鹿 世界耐久選手権鈴鹿 8 時間耐久

10 月 16 日 もてぎ 世界ロードレース選手権 案 1 （10 月 23 日 2 案）

<全日本選手権>

	日程	大会	開催クラス				備考
			J S B	JGP2	ST600	J-GP3	
第1戦	4月10日	筑波		○	○	○	2案 4/3 3案 7/10
第2戦	4月17日	鈴鹿 2 & 4	○				2案 4/10
第3戦	4月24日	オートポリス	○	○	○	○	2案6/12 3案6/5
第4戦	5月29日	もてぎ	○	○	○	○	2案5/22
第5戦	6月26日	SUGO	○	○	○	○	2案6/19
第5戦	8月21日	もてぎ 2 & 4		○			

第6戦	9月11日	オートポリス2&4	○				
第7戦	9月25日	岡山国際	○	○	○	○	
第8戦	10月30日	MFJ-GP鈴鹿	◎	○	○	○	J S Bのみ2レース
全9戦		クラス別開催数	8	7	6	6	
		クラス別レース数	7	7	6	6	

4 輪レースなどの未確定部分があるため、これ以上、カレンダー調整が進まないため、現時点の主催者の開催希望案として、今後継続調整作業とする。

## VI. 2016 普及対策について

事務局より前回合意事項を元に今回決定したい内容について説明され、審議された。

### 1. クラス名称の変更と車両規則について

将来的に、地方選手権から上位選手権まで1台の車両でステップアップできるクラスとして、現行のST250 車両規則を基に、アジアとの連携を図りつつローコストイコールコンディションクラスとして名称を変更し、排気量区分を変更することが了承された。

●クラス名称 : JP250 (ジャパンプロダクション 250)

●排気量区分

単気筒	250~300cc
2気筒	250cc

排気量区分は、公認車両時の排気量とし、単気筒は、300cc までとする。

排気量区分、重量、車両改造範囲などの詳細は、ST250 をベースに調整していく。

スケジュール

- ・クラス概要発表 9月予定
- ・車両規則発表 10月予定

### 2. JP250 の地方選手権の正式カテゴリー採用

前回からの審議どおり、以下のクラスとして地方選手権で採用することが承認された。

名称	参加資格	申請昇格制度
インターJP250	ロード国際	設定なし
ナショナル JP250	ロード国内,	国内 → 国際
	フレッシュマン	昇格なし
	ジュニア	ジュニア→国内

- ・ポイントスケールは、ST600、J-GP3 同様のスケールを使用。
- ・レース形態 : JP250 インタークラスとナショナルクラスの混走レースは可能とする。  
CBR ドリームカップとの混走レースは行わない。

### 3. MFJ カップシリーズについて

このクラスの参加者が同じ車両で上位クラスへステップアップするフィールドが必要であることから、全

日本選手権に併催する地方選手権の 1 戦を「MFJ カップ」として、地方選の活性化を見据え開催する件について以下のように承認された。

- 名称 : MFJ カップ  
開催予定施設 : 筑波、SUGO、岡山、AP、※他は検討中  
運営形態 : 1 DAY 開催（予選、決勝）基本は 土曜日開催  
レースは、クラス区分関係なく 1 レースで行う。  
参加資格 : ジュニア～国際  
ランキング : 下表のとおり

タイトル	参加資格	ポイント（地方選スケール）
MFJCUP インターJP250	国際	着順と出走台数に応じて 国際ライセンスのみポイント付与（全戦フルポイント）
MFJCUP ナショナル JP250	ジュニア～国内	着順と出走台数に応じて、国内、ジュニアライセンスのみ ポイント付与（フレッシュマンなし）全戦フルポイント

※地方選手権とのダブルタイトルで開催し、別ランキングとする。

※MFJ カップには、昇格ポイント制度は設定なし。

#### 4. ワンメイクタイヤ制度

このクラスの基本的考え方であるローコストとイコールコンディションを実現するためにはタイヤ開発競争のフィールドにしないため、ワンメイクタイヤ制度を採用することとし、タイヤ部会との調整内容が報告された。

- 1) ワンメイク制度導入の入札条件について以下のように説明し、ロードレース委員会にて承認された。  
また、今後のスケジュールおよび具体的進行は、入札委員会を設置し進めていくことが報告された。

##### ●今後のスケジュール

1. 8 月中 入札委員会を設置し入札条件確定、入札募集公示
2. 9 月末 入札締め切り
3. 10 月 入札結果公示

##### ●その他 要望

上記ワンメイクタイヤ及びST600に関して、タイヤ販売方法の変更がARTから要望された。（年間エントリーチームであっても毎戦現金書留で申し込み、支払いが生じている）タイヤの支払い方法については、施設への口座振り込みについても対応してほしいとの意見があり、各施設にて検討いただく事となった。

#### 5. ST600地方選手権について（地方選手権）

来年より実施される地方選手権ST600のワンメイクタイヤについて、国内競技規則掲載案が提出され、確認された。あわせて、地方選のST600およびJP250のタイヤ使用本数1セット規制のため、タイヤマーキングの実施についても了承された。

## VII. その他

### 1. 競技役員実務ポイントスケールの変更について

MFJ 競技役員に対する昇格ポイントスケールの変更が報告され、下記のとおりとおり変更することが確認された。

	審査委員・競技監督（正）	各役務（正副）	各役務
全日本以上	15	10	5
地方選手権以下	8	6	3

### 2. 関東ロードレース委員会議事録

6 月 23 日に開催された関東ロードレース委員会議事録が提出され、確認された。

- 1) 実名でエントリー出来ないライダー等のある場合、プログラム記載名を実名以外でも可能と出来ないかとの提案について、保険上の問題であり困難であることが説明された。
- 2) S T クラスレバーガードの取り付けについては、安全の問題であり、使用を許可すべく技術委員会において検討する。(ブレーキレバーは規則で認められている為、クラッチレバー側について)
- 3) ヘルメットリムーバーについて  
実施して 8 年経過しており、検証する時期であるとの提案を受け、装備委員会に提案することとなった。
- 4) 走路外走行のペナルティーの設定  
MFJ 規則に走路外走行に関する記載が無く、設けて欲しいとの提案であるが、故意でなくても走路外に出る場合が多々あり、それが有利になるとは考えにくいことから、各施設で対応とすることとなった。

### 3. MFJ 東北復興応援ツーリングについて資料が提出された。

イベント名称： 走ろう！MFJ 東北復興応援ツーリング 2015  
 主催： MFJ、東北応援の旅・ツーリング 2015 実行委員会  
 期間： 2015 年 10 月 17 日～11 月 30 日

以上